

GOD WITH US

Part 12: THE APOCALYPSE

Message 3 – Revelation 12-18

The Counterfeit Kingdom

神はわれらと共に

パート 12：アポカリユプシス（黙示録）

第3メッセージ—ヨハネの黙示録第12-18章

偽の王国

はじめに

黙示録第10章8-11節では、将来に関する多くの幻と啓示が記された小さな巻物をヨハネが食べるために与えられました。第12章-18章の内容に基づいて、この小さな巻物の内容には、地に下る神の裁きに関する詳細だけでなく、地上に王国を確立するためのサタンの最後の試みに関する詳細も含まれていたと推測することができます。内容の多くは、サタンの活動、サタンの反キリスト、サタンに属する人々、サタンの都である大バビロンを中心に展開します。エデンの園から始まり、その先、サタンの目的は、地上における、神の支配を妨害し、サタンの王国を確立することでした。サタンが、荒野でイエスを誘惑したときに、次の様に言いました：「もしあなたが、ひれ伏してわたしを拝むなら、これらのものを皆あなたにあげましょう（マタイ4：9）。」終末期に、神の国とサタンの王国の間で、最後の争いが起こります。これらの章では、戦いが世の最後の7年間の大患難時代へと展開し、イエスの再臨に至ることを示しています。サタ

ンの王国に対する神の反応は、その御怒りが満ちた7つの鉢の最後のさばきの注ぎであり、イエスの再臨の際のハルマゲドンの戦いで最高潮に達し、サタンの無駄な努力に終止符を打たれ、その王国（大バビロン）とその花嫁を破壊されます。

キリストの再臨を妨害しようとするサタンの試み

この部分は、サタンがイエスの再臨をいかに妨害しようとしたかについての驚くべき歴史の振り返りから始まります。ヘロデ王が、ベツレヘムに生まれた、すべての幼児を殺害させ、その領域に生まれたと報告されていた、自分の王座を脅かす王（イエス）を抹殺しようとした（マタイ2章）試みを思い出し、ここで、その物語の霊的な側面を見ます。

12:1 また、大いなるしるしが天に現れた。ひとりの女が太陽を着て、足の下に月を踏み、その頭に十二の星の冠をかぶっていた。**12:2** この女は子を宿しており、産みの苦しみと悩みとのために、泣き叫んでいた。（黙示録12：1，2）

ひとりの「女」とは、イスラエルの国であり、その冠には、イスラエルの12部族を表す12の星があります。メシアであるイエス・キリストが人間の領域に入られたのは、イスラエルを通してでした。以下の箇所から、ヘロデ王を通じて、女に生まれた男の子を殺そうとしたのは、サタンであることがわかります。創世記から黙示録までを見て、サタンの主な目的は、神の御子から人類を引き離し（私たちは、神の子であ

り、神の相続人であり、神に愛されている人であり、神の花嫁です）、人類にサタンを礼拝させ、その花嫁にすることであることがわかります。黙示録の最終章では、サタンが創世記第1章から築き上げてきたものを温存し、保護しようとする最後の無駄な試みを示しています。11:21 強い人が十分に武装して自分の邸宅を守っている限り、その持ち物は安全である。11:22 しかし、もっと強い者が襲ってきて彼に打ち勝てば、その頼みにしていた武具を奪って、その分捕品を分けるのである（ルカ 11:21, 22）。

12:3 また、もう一つのしるしが天に現れた。見よ、大きな、赤い龍がいた。それに七つの頭と十の角とがあり、その頭に七つの冠をかぶっていた。12:4 その尾は天の星の三分の一を掃き寄せ、それらを地に投げ落した。龍は子を産もうとしている女の前に立ち、生れたなら、その子を食い尽そうとかまえていた。12:5 女は男の子を産んだが、彼は鉄のつえをもってすべての国民を治めるべき者である。この子は、神のみもとに、その御座のところに、引き上げられた。12:6 女は荒野へ逃げて行った。そこには、彼女が千二百六十日のあいだ養われるように、神の用意された場所があった。（黙 12 : 3 - 6）

父なる神は、イエスの誕生の際に御子を破壊しようとするサタンの試みから保護されました。終末期に、イスラエル（ひとりの女）は、3年半の間、サタンの攻撃から保護されます。これは、2人の特別な証人が、エルサレムで預言と奇跡を行っている間、保護されるのと同じ3年半です（黙示録 11

章）。しかし、大患難時代の最後の3年半の間に状況は一転します。

天から投げ落とされ、地上で猛威を振るうサタン

12:7 さて、天では戦いが起った。ミカエルとその御使たちとが、龍と戦ったのである。龍もその使たちも応戦したが、12:8 勝てなかった。そして、もはや天には彼らのおる所がなくなった。12:9 この巨大な龍、すなわち、悪魔とか、サタンとか呼ばれ、全世界を惑わす年を経たへびは、地に投げ落され、その使たちも、もろともに投げ落された。12:10 その時わたしは、大きな声が天でこう言うのを聞いた、

「今や、われらの神の救と力と国と、神のキリストの権威とは、現れた。われらの兄弟らを訴える者、夜昼われらの神のみまえて彼らを訴える者は、投げ落された。12:11 兄弟たちは、小羊の血と彼らのあかしの言葉とによって、彼にうち勝ち、死に至るまでもそのいのちを惜しまなかった。12:12 それゆえに、天とその中に住む者たちよ、大いに喜べ。しかし、地と海よ、おまえたちはわざわざである。悪魔が、自分の時が短いのを知り、激しい怒りをもって、おまえたちのところに下ってきたからである」。（黙示録 12 : 7 - 12）

今の時点では、サタンが天の王座の間に入ることが許されていることが、上の箇所から明らかです。サタンは、昼も夜も神の子どもたちを非難するために、神の御座の間に現れま

す。しかし終末には、神の臨在に近づくことを禁じられます。ついに地に投げ落とされ、自分の時が短いことを知り、激しく怒り、神の民を見つけた場所を破壊するために暴れ回り、同時に、自分の王国を確立しようとします。特に、イスラエルは、キリストが再臨する前の3年半の間、迫害を受けます。（144,000人のユダヤ人の証人と2人の特別な証人は、患難時代の最初の3年半の間、神によって保護されたことを思い出しましょう。）

12:13 龍は、自分が地上に投げ落されたと知ると、男子を産んだ女を追いかけた。 **12:14** しかし、女は自分の場所である荒野に飛んで行くために、大きなわしの二つの翼を与えられた。そしてそこでへびからのがれて、一年、二年、また、半年の間、養われることになっていた。 **12:15** へびは女の後に水を川のように、口から吐き出して、女をおし流そうとした。 **12:16** しかし、地は女を助けた。すなわち、地はその口を開いて、龍が口から吐き出した川を飲みほした。 **12:17** 龍は、女に対して怒りを発し、女の残りの子ら、すなわち、神の戒めを守り、イエスのあかしを持っている者たちに対して、戦いをいどむために、出て行った。（黙示録12：13－17）

終末期に、神の民であるユダヤ人を滅ぼすことができなかつたので、サタンは「残りの子どもたち」、おそらくその時点で地上に残っている異邦人の神の民を攻撃しに行きます。

サタン、反キリストを地上に備える

聖書のより広い教えに基づくと、反キリストは、最後の7年間の真ん中に現れる可能性が考えられます。サタンに属する反キリストは、多くの点で、イエス・キリストに似た人（偽キリスト）です。反キリストには、サタンから力が与えられ、ある種の「死者からの復活」を経験するようです。さらに、地上の民を幻惑させて、彼について来るように仕向けます。自分に敵対する勢力への攻撃にひるみません。霊的助手（偽の聖霊）によって力が与えられます。使徒パウロは、反キリストを「無法者」と述べ、その到来は、サタンの働きを表すと言いました（2テサロニケ2:3-12）。

13:1 わたしはまた、一匹の獣が海から上って来るのを見た。それには角が十本、頭が七つあり、それらの角には十の冠があつて、頭には神を汚す名がついていた。 **13:2** わたしの見たこの獣はひょうに似ており、その足はくまの足のようで、その口はししの口のものであつた。龍は自分の力と位と大いなる権威とを、この獣に与えた。 **13:3** その頭の一つが、死ぬほどの傷を受けたが、その致命的な傷もなおってしまった。そこで、全地の人々は驚きおそれて、その獣に従い、 **13:4** また、龍がその権威を獣に与えたので、人々は龍を拝み、さらに、その獣を拝んで言った、「だれが、この獣に匹敵し得ようか。だれが、これと戦うことができようか」。 **13:5** この獣には、また、大言を吐き汚しごとを語る口が与えられ、四十

二か月のあいだ活動する権威が与えられた。13:6 そこで、彼は口を開いて神を汚し、神の御名と、その幕屋、すなわち、天に住む者たちとを汚した。(黙示録 13:1-6)

最も恐ろしいことに、反キリストには、地上の神の民を攻撃し、打ち勝つ権限が、神から与えられています(黙 13:7)。反キリストの出現に続いて、神の民にとって、途方もない試練と苦しみの時が訪れます。これは、イエスが預言されたこと(マタイ 24:9-22)であり、パウロが「不法な者」の啓示によって予期したことです。新約聖書の預言的な箇所は、将来のこの反キリストの出現を明らかにする点で一貫しています。次の箇所の最後で、聖徒が最後まで忍耐強くいるようにと戒められていることに注意しましょう(黙 13:10)。

13:7 そして彼は、聖徒に戦いをいどんでこれに勝つことを許され、さらに、すべての部族、民族、国語、国民を支配する権威を与えられた。13:8 地に住む者で、ほふられた小羊のいのちの書に、その名を世の初めからしるされていない者はみな、この獣を拜むであろう。13:9 耳のある者は、聞くがよい。13:10 とりこになるべき者は、とりこになっていく。つるぎで殺す者は、自らもつるぎで殺されねばならない。ここに、聖徒たちの忍耐と信仰とがある。(黙示録 13:7-10)

反キリストの助け人

私たちは、神が、父と子と聖霊の完全な三位一体の内におられることを知っています。また、聖霊がイエスだけ(イエスの地上における宣教活動)でなく、神の子どもたちにも命を与え、力を与えてくださることを知っています。ここで、神の三位一体を真似て、サタンの偽三位一体を持っていることがわかります。サタンは偽の父なる神、反キリストは偽の神の子、そして、この「ほかの獣」は、聖霊の真似をするために地から上がって来て、反キリストを活気づけ、力を与え、人々に反キリストを礼拝させるように働きます。サタンは、神の御国の模造品を世にもたらそうと一生懸命働いています。

13:11 わたしはまた、ほかの獣が地から上って来るのを見た。それには小羊のような角が二つあって、龍のように物を言った。13:12 そして、先の獣の持つすべての権力をその前で働かせた。また、地と地に住む人々に、致命的な傷がいやされた先の獣を拜ませた。13:13 また、大いなるしるしを行って、人々の前で火を天から地に降らせることさえした。13:14 さらに、先の獣の前で行うのを許されたしるしで、地に住む人々を惑わし、かつ、つるぎの傷を受けてもなお生きている先の獣の像を造ることを、地に住む人々に命じた。13:15 それから、その獣の像に息を吹き込んで、その獣の像が物を言うことさえできるようにし、また、その獣の像を拜まない者をみな殺させた。13:16 また、小さき者にも、大いなる者にも、富

める者にも、貧しき者にも、自由人にも、奴隷にも、すべての人々に、その右の手あるいは額に刻印を押させ、**13:17** この刻印のない者はみな、物を買うことも売ることもできないようにした。この刻印は、その獣の名、または、その名の数字のことである。**13:18** ここに、知恵が必要である。思慮のある者は、獣の数字を解くがよい。その数字とは、人間をさすものである。そして、その数字は六百六十六である。

(黙示録 13 : 11 - 18)

人々が反キリストの規則と権威を受け入れたことを証明し、識別するために、ある種の刻印が必要になります。その刻印がなければ、この世で通常の経済活動に従事することができなくなります。反キリストの支配下にある世界では、通常の稼働システムから「締め出され」ます。ギリシア人とローマ人は、ゲマトリアと呼ばれる、一連の番号を用いて、メッセージを象徴的に伝えるための送信方法を実践しました。たとえば、ポンペイの壁には、「私は、番号 545 番の彼女が大好きです。」と書かれた碑文が見つかりました。それは、実際の名前を明かさずに誰かを特定する方法です。「内部情報」を知る者だけが、ゲマトリアの秘密を解くことができます。反キリストの番号は、666 です。この数字は、パズルの一片に過ぎません。今の状況で、この番号を通して、その個人を特定しようとするのがいかに無益であるかを、この箇所翻訳の歴史は明らかにしています。反キリストの正体

は、他にも記されている、すべての兆候が明らかになるにつれて、終わりの時に賢明な人々に明らかになります。「獣の数を計算すること」は、黙示録が説明しているように、世の終末の出来事のより広い文脈で計算が行われると、より現実的になります。「全体像」は、詳細を理解するのに役立ちます。

シオンの山の子羊と 144,000 の人々

第 7 章 4-8 節で、144,000 人のユダヤ人の証人を封印し、保護されました。ここで、子羊とともに天国にいる、特別な証人を見ます。彼らは、地上での任務を忠実に全うし、死、または携挙によって天国に運ばれました。彼らは子羊と共にあり、24 人の長老と 4 匹の生き物と共に礼拝しています。

14:1 なお、わたしが見ていると、見よ、小羊がシオンの山に立っていた。また、十四万四千の人々が小羊と共におり、その額に小羊の名とその父の名とが書かれていた。**14:2** またわたしは、大水のとどろきのような、激しい雷鳴のような声が、天から出るのを聞いた。わたしの聞いたその声は、琴をひく人が立琴をひく音のようでもあった。**14:3** 彼らは、御座の前、四つの生き物と長老たちとの前で、新しい歌を歌った。この歌は、地からあがなわれた十四万四千人のほかは、だれも学ぶことができなかった。**14:4** 彼らは、女にふれたことのない者である。彼らは、純潔な者である。そして、小羊の行く所へは、どこへでもついて行く。彼らは、神と小羊と

にささげられる初穂として、人間の中からあがなわれた者である。14:5 彼らの口には偽りがなく、彼らは傷のない者であった。（黙示録14：1－5）

福音を携える天使の幻

ここで福音の真理について、地上の人々に、天使が証ししています。神は、福音の永遠の真理を天使ではなく人間に託されたと、頻りにコメントしてきました（天使はメッセージをもっと早く広めることができたとしても、この問題に個人的な利害関係を持っていません）。しかしここで、終末期に、神が天使に福音を携えられ、それを天使が地球全体に広め、人々にさらに応答する機会を与えるのを見ます。世界に福音を広めるための神の終末の方法には切迫感があります。

14:6 わたしは、もうひとりの御使が中空を飛ぶのを見た。彼は地に住む者、すなわち、あらゆる国民、部族、国語、民族に宣べ伝えるために、永遠の福音をたずさえてきて、14:7 大声で言った、「神をおそれ、神に栄光を帰せよ。神のさばきの時がきたからである。天と地と海と水の源とを造られたかたを、伏し拝め」。（黙示録14：6，7）

天使は良い知らせを告げるだけでなく、サタンの王国に対する神の裁きの時が来たという緊迫した知らせももたらします。手遅れになる前に、人々は神を恐れ、ご栄光を与えるようにと忠告しています。もう一人の天使が現れ、「大バビロ

ン」の崩壊をより具体的に告げます。バビロンの崩壊については、第17章、18章で詳しく説明します。

14:8 また、ほかの第二の御使が、続いてきて言った、「倒れた、大いなるバビロンは倒れた。その不品行に対する激しい怒りのぶどう酒を、あらゆる国民に飲ませた者」。（黙示録14：8）

反キリストを礼拝する者に対する御怒りの杯

以前、「二つの杯」、つまり、神の御怒りの杯と祝福の杯について話しました。パウロが「祝福の杯」と呼んだものを私たちが飲むことができるようになるために、イエスは、十字架上で、神の御怒りの杯（さばき）を飲んでくださいました（1コリント10:16）。そして、この場面では、人々が神の御怒りの杯を飲むのを見ます。なぜでしょうか？それは、イエスが十字架の死によって、怒りの杯を空にしてくださったとき、彼らのためにしてくださった御業を受け入れることを拒否したからです。

14:9 ほかの第三の御使が彼らに続いてきて、大声で言った、「おおよそ、獣とその像とを拝み、額や手に刻印を受ける者は、14:10 神の怒りの杯に混ぜものなしに盛られた、神の激しい怒りのぶどう酒を飲み、聖なる御使たちと小羊との前で、火と硫黄とで苦しめられる。14:11 その苦しみの煙は世々限りなく立ちのぼり、そして、獣とその像とを拝む者、また、だれでもその名の刻印を受けている者は、昼も夜も休みが得ら

れない。14:12 ここに、神の戒めを守り、イエスを信じる信仰を持ちつづける聖徒の忍耐がある」。14:13 またわたしは、天からの声がこう言うのを聞いた、「書きしるせ、『今から後、主にあって死ぬ死人はさいわいである』」。御霊も言う、「しかり、彼らはその労苦を解かれて休み、そのわざは彼らについていく」。(黙示録14:9-13)

2種類の刈り取り、地から収穫を刈り取る

「携挙」のタイミングについて、多くのことが記されています(参照:第1テサロニケ4:16-18、地上の神の民が、彼らと共に雲に包まれて引き上げられ、空中で主に会い、こうして、いつも主と共にいるであろう。)。一部の人々は、地上における最後の7年間の大患難時代の前に携挙が起こると信じています(患難時代前の携挙の位置づけ)。ある人々は、サタンが反キリストと共に王国を設立する直前の中間点で起こると信じています(艱難時代の中間点の携挙の位置づけ)。また、ある人々は、携挙が7年間の大患難時代の終わりに起こると信じています(患難時代後携挙の位置づけ)。また、ある人々(私自身も含む)は、7年間の終わりの少し前に、神の御怒りが、7つの鉢のさばき(御怒りの前の携挙の位置づけ)の最後が注がれる直前に起こると信じています。私の見解は、次の箇所です、神の民が大患難時代の終わり近くに、この世から携挙されたことに言及しています。

この刈り取りは、善い部分と悪い部分の2つに分けて起こります。これは、週末時代の終わりに起こる分離について語っている聖書の他の箇所と一致します(参照:マタイ13:30-麦が納屋に集められている間に毒麦が燃え尽きました。マタイ13:47-50-良い魚は容器に集められましたが、悪い魚は捨てられました。マタイ24:37-42-一人は畑から連れ出され、もう一人は置き去りにされました。)

最初の刈り取り

最初の刈り取りの説明は、イエス・キリストの叙述に非常によく似ています。これが、多くの翻訳の中で、イエスの代名詞「彼は」、「彼の」、「彼を」が大文字になっている理由です。翻訳者たちは、それをイエスへの言及と見なしているからです。ここでは、イエスが地上の四隅から、その民を刈り取られるために来られるのを見ます(参照:マタイ24:30、31)。この最初の刈り取りでは、イエスが収穫をご自分と共に連れていかれ、2番目の刈り取りでは、収穫を神の御怒りの酒ぶねに投げ込まれることに注意することが重要です。したがって、神の御怒りからの救いと解放を表すイエスご自身による霊的刈り取りと、神の御心に対抗し続ける罪びとたちの裁きと破壊を表す刈り取りが起こります。

14:14 また見ていると、見よ、白い雲があつて、その雲の上に人の子のような者が座しており、頭には金の冠をいただき、手には鋭いかまを持っていた。14:15 すると、もうひとりの御使が聖所から出てきて、雲の上に座している者にむかって大

声で叫んだ、「かまを入れて刈り取りなさい。地の穀物は全く実り、刈り取るべき時がきた」。14:16 雲の上に座している者は、そのかまを地に投げ入れた。すると、地のものが刈り取られた。（黙示録 14：14－16）

第二の刈り取り

14:17 また、もうひとりの御使が、天の聖所から出てきたが、彼もまた鋭いかまを持っていた。14:18 さらに、もうひとりの御使で、火を支配する権威を持っている者が、祭壇から出てきて、鋭いかまを持つ御使にむかい、大声で言った、「その鋭いかまを地に入れて、地のぶどうのふさを刈り集めなさい。ぶどうの実がすでに熟しているから」。14:19 そこで、御使はそのかまを地に投げ入れて、地のぶどうを刈り集め、神の激しい怒りの大きな酒ぶねに投げ込んだ。14:20 そして、その酒ぶねが都の外で踏まれた。すると、血が酒ぶねから流れ出て、馬のくつわにとどくほどになり、一千六百丁にわたってひろがった。（黙示録 14：17－20）

7つの鉢のさばきを注ぐ準備

黙示録 第 15 章、16 章は、この本全体の中でも、最も悲しく、厳粛な章です。第 15 章は、本質的に、第 16 章で、神の最後の御怒りの 7つの鉢のさばきが注がれるための準備です。この時点では、もはや休止することも、土壇場での福音メッセージも、神の玉座からの懇願も、終わりが近づいてい

ることを告げる天使もいません。これは、人類の歴史の時代の終焉です。この 2つの章の中には、印象的な 3つの言葉、最後（黙 15:1）、完了した（黙 15:1）、成就した（黙 16:17）があります。それらは、私たちが読もうとしている完全な終焉を指し示しているだけでなく、イエスが罪に対する神のさばきの完全な影響を受けられた後に、十字架上で言われたことばを反映しているからでもあります（参照：ヨハネ 19:30、「完了した。」）。ヨハネの黙示録の至る所で思い出させられる悲しいリマインダーは、キリストによる、十字架上で完了した御業が、もう一度、完了する必要があるということです。．．． 人類が、キリストによって備えられた、支払いを拒否した結果です。

神の裁きを地上に注ぎ出す働きを「完了させる」7人の天使たちの準備が整いました。神の御座の前に、ガラスの海のようなものに立つ「獣にうち勝った」大勢の人々が天国にいるのが見えます。これらは、前の段落で神の子によって地上から刈り取られた人々である可能性があります。地上における迫害の日々は終わり、今、その義を証明する日が到来しました。彼らは「モーセの歌」を歌っています。この歌は、イスラエルの民を抑圧から神が力強く解放してくださったことへの旧約聖書の様々な言及から構成された歌です。

15:1 またわたしは、天に大いなる驚くべきほかのしるしを見た。七人の御使が、最後の七つの災害を携えていた。これらの災害で神の激しい怒りがその頂点に達するのである。 15:2

またわたしは、火のまじったガラスの海のようなものを見た。そして、このガラスの海のそばに、獣とその像とその名の数字とにうち勝った人々が、神の立琴を手にして立っているのを見た。15:3 彼らは、神の僕モーセの歌と小羊の歌とを歌って言った、「全能者にして主なる神よ。あなたのみわざは、大いなる、また驚くべきものであります。万民の王よ、あなたの道は正しく、かつ真実であります。15:4 主よ、あなたをおそれず、御名をほめたたえない者が、ありましようか。あなただけが聖なるかたであり、あらゆる国民はきて、あなたを伏し拝むでしょう。あなたの正しいさばきが、あらわれるに至ったからであります」。(黙示録15:1-4)

7人の天使が現れ、神の7つの最後のさばきを地上に注ぐ準備を整えました。厳粛な方法で、天国の「至聖所」は、7人の天使がさばきの鉢を注ぎ終えるまでは、誰も聖所にはいることができませんでした。聖所は神の栄光とその力とから立ちのぼる煙で満たされます。彼の「そのわざは異なったもの」であるさばきの行いを引き受けようとしています(イザヤ書28:21)。

15:5 その後、わたしが見ていると、天にある、あかしの幕屋の聖所が開かれ、15:6 その聖所から、七つの災害を携えている七人の御使が、汚れのない、光り輝く亜麻布を身にまとい、金の帯を胸にしめて、出てきた。15:7 そして、四つの生き物の一つが、世々限りなく生きておられる神の激しい怒り

の満ちた七つの金の鉢を、七人の御使に渡した。15:8 すると、聖所は神の栄光とその力とから立ちのぼる煙で満たされ、七人の御使の七つの災害が終わってしまうまでは、だれも聖所にはいることができなかった。(黙示録15:5-8)

御怒りの6つの鉢

神の鉢の裁きは、神の支配に反して、地上に残っているすべての人々に下るさばきです。恐ろしいという以外、これらの怒りの鉢のさばきについて言えることはありません。これらの箇所、地上の神に反抗する人々は、さばきが天の神から下っていることを心得ているけれども、それでもなお、神の支配と権威に屈することを拒否しています。

第一の鉢のさばき：

反キリスト従う人たちに悪性のできもの

16:1 それから、大きな声が聖所から出て、七人の御使にむかい、「さあ行って、神の激しい怒りの七つの鉢を、地に傾けよ」と言うのを聞いた。16:2 そして、第一の者が出て行って、その鉢を地に傾けた。すると、獣の刻印を持つ人々と、その像を拝む人々とのかからだに、ひどい悪性のでき物ができた。(黙示録16:1, 2)

第二の鉢のさばき：

海のすべての生物の死滅

16:3 第二の者が、その鉢を海に傾けた。すると、海は死人の血のようになって、その中の生き物がみな死んでしまった。

第三の鉢のさばき：

川と泉の水は血になった

16:4 第三の者がその鉢を川と水の源とに傾けた。すると、みな血になった。16:5 それから、水をつかさどる御使がこう言うのを、聞いた、「今いまし、昔いませる聖なる者よ。このようにお定めになったあなたは、正しいかたであります。16:6 聖徒と預言者との血を流した者たちに、血をお飲ませになりましたが、それは当然のことです。16:7 わたしはまた祭壇がこう言うのを聞いた、「全能者にして主なる神よ。しかり、あなたのさばきは真実で、かつ正しいさばきであります」。(黙示録 16:4-7)

第四の鉢のさばき：

太陽は人類を火で焼き尽くす

16:8 第四の者が、その鉢を太陽に傾けた。すると、太陽は火で人々を焼くことを許された。16:9 人々は、激しい炎熱で焼かれたが、これらの災害を支配する神の御名を汚し、悔い改めて神に栄光を帰することをしなかった。(黙 16:8, 9)

第五の鉢のさばき：

反キリストの王国に暗黒が襲った

16:10 第五の者が、その鉢を獣の座に傾けた。すると、獣の国は暗くなり、人々は苦痛のあまり舌をかみ、16:11 その苦痛とでき物とのゆえに、天の神をのろった。そして、自分の行いを悔い改めなかった。(黙示録 16:10, 11)

第六の鉢のさばき：

反キリストの軍勢、ハルマゲドンに備える

第六のラッパのさばきで、人類の3分の1を破壊した人類の戦いのために、ユーフラテス川に2億人の巨大な軍勢が召集されているのを見ました。第6のラッパに続いて、第7のラッパが鳴り、キリストが再臨されました(参照：黙 9:13-16と、11:15-19)。同様に、第6の鉢のさばきでは、全世界の王が戦争のためにユーフラテスに集まります。しかし、ここでは、反キリストによる人間の軍勢が結集し、神の軍勢と戦うために集結しました。これは、ハルマゲドンの戦い、黙示録第19章 11-21節のキリストの目に見える再臨で説明されているのと同じ戦争です。

16:12 第六の者が、その鉢を大ユウフラテ川に傾けた。すると、その水は、日の出る方から来る王たちに対し道を備えるために、かかれてしまった。16:13 また見ると、龍の口から、獣の口から、にせ預言者の口から、かえるのような三つの汚れ

た霊が出てきた。16:14 これらは、しるしを行う悪霊の霊であって、全世界の王たちのところに行き、彼らを召集したが、それは、全能なる神の大いなる日に、戦いをするためであった。16:15 (見よ、わたしは盗人のように来る。裸のまま歩かないように、また、裸の恥を見られないように、目をさまし着物を身に着けている者は、さいわいである。) 16:16 三つの霊は、ヘブル語でハルマゲドンという所に、王たちを召集した。(黙示録：16：12－16)

第七の鉢のさばき： 成就した

16:17 第七の者が、その鉢を空中に傾けた。すると、大きな声が聖所の中から、御座から出て、「事はすでに成った」と言った。16:18 すると、いなずまと、もろもろの声と、雷鳴とが起り、また激しい地震があった。それは人間が地上にあらわれて以来、かつてなかったようなもので、それほどに激しい地震であった。16:19 大いなる都は三つに裂かれ、諸国民の町々は倒れた。神は大いなるバビロンを思い起し、これに神の激しい怒りのぶどう酒の杯を与えられた。16:20 島々はみな逃げ去り、山々は見えなくなった。16:21 また一タラントの重さほどの大きな雹が、天から人々の上に降ってきた。人々は、この雹の災害のゆえに神をのろった。その災害が、非常に大きかったからである。(黙示録：16：17－21)

御怒りの7つの鉢のさばきをもって、神の怒りのさばきはすべて行われ、イエス・キリストの再臨へと私たちを繋げます(第19章に詳述)。ここで、ヨハネは、第17章と18章の大バビロンの裁きの幻を見るために招かれます。

大バビロンの正体が暴かれる

旧約聖書には、目に見えない現実について教えてくれる場面があります。シリアの王は、預言者エリシャを捕らえるために、夜中に大軍を送ってドタンの町を包囲しました。翌朝、エリシャの召使いが目を覚まし、町を取り囲んでいるシリア軍を見たとき、恐れて叫びました。「我が主よ。どうすればよいのでしょうか？」それから、エリシャの次の言葉を読みました：

6:17 そしてエリシャが祈って「主よ、どうぞ、彼の目を開いて見させてください」と言うと、主はその若者の目を開かれたので、彼が見ると、火の馬と火の戦車が山に満ちてエリシャのまわりにあった。(第二列王記6：17)

そこには目に見えない霊的な力があり、神のしもべを保護していました。肉眼では見えなくても、現実には、活発に働いています。私たちの世界には、霊的現実と悪魔と天使が働いています。静かに、私たちの目には見えなくても、神、あるいはサタンから与えられた課題を前進させようと、活発

に働いています。s 目に見えない力について聖書の教えは一貫しています。

聖書の最後の 5 章のところで、突然、創世記から黙示録までの人類の歴史を通じて機能してきた破壊的な反対勢力の正体が明らかになります。ここで彼女は「大バビロン」として識別されます。「バビロン」は、人類の力と創意工夫を示すことを目的とした、創世記第 11 章 1-9 節のバベルの塔の物語りで最初に登場しました。人間の王国への一種の賛辞であり、神の王国と主権を否定します。神がそのプロジェクトに反対された理由がそこにあります。なぜ、彼らの言語を混乱させて、塔を完成することができなくされたのでしょうか。「バベル」の塔として知られるようになったのは、神が人類に望んでおられたこと、つまり神への依存と神との関係に反するからです。

それが「大バビロン」と呼ばれるこの影響の最初の出現でした。バビロンは、都ではありません。神から独立した都を構築する影響力です。バベルの塔は廃墟と化しましたが、大バビロン-「観念」であるバビロンは消えませんでした。ただ別の衣をまとったのです。バビロンは、世界に影響を与える広大な悪のシステムです。神の国に敵対するすべてのものを代表する世界観です。人類に対するサタンの価値体制です。サタンの宗教的・経済的システムです。神から離れて、栄光を追求するサタンの誘惑です。

歴史の後半、ネブカドネザルが偉大なバビロニアの王国を築いたとき、宮殿の屋根の上を歩き、自分の偉業の素晴らしさに感嘆しました。その言葉の中に現れている、誇り、この支配者の心の中に存在する大バビロンが聞こえるでしょう：

4:30 王は自ら言った、「この大いなるバビロンは、わたしの大いなる力をもって建てた王城であって、わが威光を輝かすものではないか」。**4:31** その言葉がなお王の口にあるうちに、天から声がくだって言った、「ネブカデネザル王よ、あなたに告げる。国はあなたを離れ去った。(ダニ4:30, 31)

偉大な王国、偉大な都市、偉大な塔、または偉大な企業を建設することに何の問題もありません。神は、地球全体を支配し征服するために私たちを創造されました。しかし、貪欲、プライド、力が状況のダイナミック全体を支配し始め、私たちのプロジェクトが偶像になり、自身を定義する方法になるとき、大バビロンの手法が見えてきます。高貴なものが邪悪なものへと変わります。神のご栄光のために地を支配し、征服する代わりに、神の御力によって、神から独立して活動し始めます。それは大バビロンによる大きな誘惑であり、神なしの栄光です。

ヨハネの時代、大バビロンは、その贅沢、キリスト教徒への憎しみ、豪華さへの貪欲さ、横行する不品行によって、ローマ帝国の中で動いていました。ヨハネは、この驚くべき幻が展開されるのを見たとき、ローマ皇帝の神格の自己宣言、

権力の乱用、豪華な祝宴、サーカス、粗大な物質主義、キリスト教徒の殉教などについて考えたに違いありません。ヨハネの時代のローマは、働いている力の世俗的な現れであり、世界を魅了する大バビロンの力でした。

しかし、バビロンは、一時や一か所に限定されません。あらゆる文化、あらゆる時代に虚栄心と不敬の呪文を唱え、歴史を通して自分の商売を重ねてきました。バビロンは、世界的な不敬です。私たちが信じる嘘であり、生を約束するが死をもたらす罠です。バビロンは、私たちを捕らえ、神から遠ざける仕掛けであり、欺きです。バビロンは、神以外のすべてに夢中です。黙示録第17章では、バビロンの招待が明らかにされ、第18章では、崩壊されます。

17:1 それから、七つの鉢を持つ七人の御使のひとりがきて、わたしに語って言った、「さあ、きなさい。多くの水の上にすわっている大淫婦に対するさばきを、見せよう。 **17:2** 地の王たちはこの女と姦淫を行い、地に住む人々はこの女の姦淫のぶどう酒に酔いしれている」。 **17:3** 御使は、わたしを御霊に感じたまま、荒野へ連れて行った。わたしは、そこでひとりの女が赤い獣に乗っているのを見た。その獣は神を汚すかざらずの名でおおわれ、また、それに七つの頭と十の角とがあった。 **17:4** この女は紫と赤の衣をまとい、金と宝石と真珠とで身を飾り、憎むべきものと自分の姦淫の汚れとで満ちている金の杯を手に持ち、 **17:5** その額には、一つの名がしるさ

れていた。それは奥義であって、「大いなるバビロン、淫婦どもと地の憎むべきものらの母」というのであった。 **17:6** わたしは、この女が聖徒の血とイエスの証人の血に酔いしれているのを見た。この女を見た時、わたしは非常に驚きあやしんだ。（黙示録17：1－6）

ここでは、バビロンが様々な形で描写されています。バビロンは、大淫婦であり、すべての善良で純粋なものの究極の汚れです。神のすべての教えを墮落に変え、多くの水に座って、すべての国に影響を与えます。彼女（バビロン）を単一の都や国家、あるいは明確な歴史的世界強国と見なしてはいけません。彼女（バビロン）は、歴史を通して、世界中の路上でその商売を営んでいます。地の王たちはこの女と姦淫を行います。この女（バビロン）は、王や支配者、地上の権力ある取引業者を支配しています。世界の指導者たちは、知らず知らずのうちに、自分たちの生活や政権を彼女（バビロン）の価値観に合わせるように誘惑されていきます。彼らの心を彼女のアジェンダに向けて駆り立てる目に見えない力です。地に住む人々はこの女の姦淫のぶどう酒に酔いしれています。地上の人々は、毎日、知らず知らずのうちに彼女のワインを飲み、酔いしれ、その支配に泥酔しています。テレビをつけると、彼女（バビロン）がいます。コンピュータをつけると、そこにもいます。雑誌売り場の傍を歩くとそこにもいます。ラジオをつけると、あなたに向かって歌いかけます。彼女（バビロン）は、神

を汚すかざかざの名でおおわれた赤い獣に乗っています。これは、第13章で見た、同じ獣である反キリストです。これは、彼女（バビロン）が、サタンの王国と完全に一致していることを意味します。この女は紫と赤の衣をまとい、金と宝石と真珠とで身を飾られています。彼女は、派手と贅沢を好み、身を飾ります。非常に魅力的で、世界を魅了する愛人です。さらに、彼女（バビロン）は、情熱のワインで世界を酔わせる一方で、この女自身が聖徒の血とイエスの証人の血に酔いしれています。イエス・キリストを憎み、イエス・キリストのすべての教えに対抗します。彼女はいつの時代にも、神の民を神から引き離す、貪欲、奢侈、快樂を押し進める力となりました。迫害のあるところに、彼女（バビロン）がいます。

ヨハネには、この幻の意味を理解できなかったので、天使が説明を始めます（現代の翻訳者は、さらに困惑させられます）。

17:6 わたしは、この女が聖徒の血とイエスの証人の血に酔いしれているのを見た。この女を見た時、わたしは非常に驚きあやしんだ。**17:7** すると、御使はわたしに言った、「なぜそんなに驚くのか。この女の奥義と、女を乗せている七つの頭と十の角のある獣の奥義とを、話してあげよう。**17:8** あなたの見た獣は、昔はいたが、今はおらず、そして、やがて底知れぬ所から上ってきて、ついには滅びに至るものである。地に住む者のうち、世の初めからいのちの書に名をしるされていない者たちは、この獣が、昔はいたが今はおらず、やがて

来るのを見て、驚きあやしむであろう。**17:9** ここに、知恵のある心が必要である。七つの頭は、この女のすわっている七つの山であり、また、七人の王のことである。**17:10** そのうちの五人はすでに倒れ、ひとりは今おり、もうひとりは、まだきていない。それが来れば、しばらくの間だけおることになっている。**17:11** 昔はいたが今はいないという獣は、すなわち第八のものであるが、またそれは、かの七人の中のひとりであって、ついには滅びに至るものである。**17:12** あなたの見た十の角は、十人の王のことであって、彼らはまだ国を受けてはいないが、獣と共に、一時だけ王としての権威を受ける。**17:13** 彼らは心をひとつにしている。そして、自分たちの力と権威とを獣に与える。**17:14** 彼らは小羊に戦いをいどんでくるが、小羊は、主の主、王の王であるから、彼らにうち勝つ。また、小羊と共にいる召された、選ばれた、忠実な者たちも、勝利を得る」。**17:15** 御使はまた、わたしに言った、「あなたの見た水、すなわち、淫婦のすわっている所は、あらゆる民族、群衆、国民、国語である。**17:16** あなたの見た十の角と獣とは、この淫婦を憎み、みじめな者にし、裸にし、彼女の肉を食い、火で焼き尽すであろう。**17:17** 神は、御言が成就する時まで、彼らの心の中に、御旨を行い、思いをひとつにし、彼らの支配権を獣に与える思いを持つようにされたからである。**17:18** あなたの見たかの女は、地の王たちを支配する大いなる都のことである」。（黙示録17:6-18）

厳密な詳細に満ちたこの句は、解釈が非常に困難です。この本における、未来学者による見解をとり入れる、多くの翻訳家たちが上げている、基本的な考えを述べます。その女（大バビロン）は、終わりの日に、心をつにして反キリストに仕えるでしょう。そこまでは明らかです。さらに、彼女は、歴史の終末期に反キリストの世界支配の一部であった王の連合と連携するようです。この箇所には、ヨハネの時代のローマの街（7つの丘）と、ローマ皇帝の継承（7人の王）が暗示されています。しかし、このイメージは、当時の現実に基づいていますが、世界を支配しようとする終末の同盟を指している可能性があります。（預言者の一般的な手法は、現在の出来事の中に、将来の出来事の前兆を見ることでした。）この終末の連合は、反キリストによって率いられます。その王国は、邪悪の最終的かつ、究極の現れとなるでしょう。一時（短期間）、権限が与えられる10人の王は、終末（具体的には、患難時代の最後の3年半）の特定の期間、反キリストによって王としての権威を受け、同じ時期に統治する可能性があります。彼らは、反キリストが世界を支配し、子羊に対抗するのを支援します。大バビロンの影響は、この邪悪な王国を活気づけ、これらの王の動機と価値観を導きます。

驚くべきことに、この王の連合は、最終的に大バビロンを攻撃し、彼女を破壊します！「あなたの見た十の角と獣とは、この淫婦を憎み、みじめな者にし、裸にし、彼女の肉を食

い、火で焼き尽くすであろう。」これは、最終的にサタンの悪の王国が分裂することを示しているようです。それは、貪欲、プライド、権力によって、自ら崩れ始めるでしょう。腐敗、物質主義、快楽主義の広大なシステムは、自らの邪悪な衝動の重みで崩壊します。次の章では、大バビロンの最終的な崩壊を鮮明に描写しています。

大バビロンの崩壊

18:1 この後、わたしは、もうひとりの御使が、大いなる権威を持って、天から降りて来るのを見た。地は彼の栄光によって明るくされた。**18:2** 彼は力強い声で叫んで言った、「倒れた、大いなるバビロンは倒れた。そして、それは悪魔の住む所、あらゆる汚れた霊の巣くつ、また、あらゆる汚れた憎むべき鳥の巣くつとなった。**18:3** すべての国民は、彼女の姦淫に対する激しい怒りのぶどう酒を飲み、地の王たちは彼女と姦淫を行い、地上の商人（黙示録18：1－3）

大バビロンが崩壊しようとしています。贅沢と美しさに満ちた輝かしい都は、彼女（大バビロン）は、悪魔の住む所、あらゆる汚れた霊の巣くつ、また、あらゆる汚れた憎むべき鳥の巣くつとなりました。つまり、邪悪の有害なゴミ捨て場の様でした。以前は、世界中の偉人たちが彼女に魅了されました。しかし、ここでは、彼女が災害に襲われるのを目撃するとき、皆、距離を置いて立ちます。

神の民は、「大バビロンから出て行く」ように召されています。私たちは、この「世界に」住んでいますが、大バビロンの精神に囚われてはなりません。

18:4 わたしはまた、もうひとつの声が天から出るのを聞いた、「わたしの民よ。彼女から離れ去って、その罪にあずからないようにし、その災害に巻き込まれないようにせよ。 **18:5** 彼女の罪は積み積って天に達しており、神はその不義の行いを覚えておられる。 **18:6** 彼女がしたとおりに彼女にし返し、そのしわざに応じて二倍に報復をし、彼女が混ぜて入れた杯の中に、その倍の量を、入れてやれ。 **18:7** 彼女が自ら高ぶり、ぜいたくをほしいままにしたので、それに対して、同じほどの苦しみと悲しみとを味わわせてやれ。彼女は心の中で『わたしは女王の位についている者であって、やめではないのだから、悲しみを知らない』と言っている。 **18:8** それゆえ、さまざまの災害が、死と悲しみとききんとが、一日のうちに彼女を襲い、そして、彼女は火で焼かれてしまう。彼女をさばく主なる神は、力強いかなのである。（黙示録 18：4－8）

大バビロンの終焉に、世界の王たちと偉大な商人たちが衝撃を受けます。彼らは彼女の影響力から最も利益を得てきました。彼女の手段によって、多大な力を手に入れました。彼女の影響によって、支配権を振るいました。彼女の贅沢によって富を築きました。しかし、彼らを夢中にさせたこの偉大

な都、この価値感のシステム、彼らを真実に盲目にさせ続けるこの隠された観念は、わずか一瞬にして正体が暴かれ、神によって裁かれます。9月11日、ニューヨーク市で、ツインタワーが崩壊したときの恐怖を思い出します。その時に感じた衝撃は、大バビロンが崩壊する日に、人類を感じる衝撃のわずかな前兆であったと言えるのではないのでしょうか。

18:9 彼女と姦淫を行い、ぜいたくをほしいままにしていた地の王たちは、彼女が焼かれる火の煙を見て、彼女のために胸を打って泣き悲しみ、 **18:10** 彼女の苦しみに恐れをいだき、遠くに立って言うであろう、『ああ、わざわざいだ、大いなる都、不落の都、バビロンは、わざわざいだ。おまえに対するさばきは、一瞬にしてきた』。 **18:11** また、地の商人たちも彼女のために泣き悲しむ。もはや、彼らの商品を買う者が、ひとりもないからである。 **18:12** その商品は、金、銀、宝石、真珠、麻布、紫布、絹、緋布、各種の香木、各種の象牙細工、高価な木材、銅、鉄、大理石などの器、 **18:13** 肉桂、香料、香、におい油、乳香、ぶどう酒、オリーブ油、麦粉、麦、牛、羊、馬、車、奴隸、そして人身などである。 **18:14** おまえの心の喜びであつたくだものはなくなり、あらゆるはでな、はなやかな物はおまえから消え去った。それらのものはもはや見られない。 **18:15** これらの品々を売って、彼女から富を得た商人は、彼女の苦しみに恐れをいできて遠くに立ち、泣き悲しんで言う、 **18:16** 『ああ、わざわざいだ、麻布と紫布と緋布をま

とい、金や宝石や真珠で身を飾っていた大いなる都は、わざわざわいだ。18:17 これほどの富が、一瞬にして無に帰してしまうとは』。また、すべての船長、航海者、水夫、すべて海で働いている人たちは、遠くに立ち、18:18 彼女が焼かれる火の煙を見て、叫んで言う、『これほどの大いなる都は、どこにあるろう』。18:19 彼らは頭にちりをかぶり、泣き悲しんで叫ぶ、『ああ、わざわざわいだ、この大いなる都は、わざわざわいだ。そのおごりによって、海に舟を持つすべての人が富を得ていたのに、この都も一瞬にして無に帰してしまった』。18:20 天よ、聖徒たちよ、使徒たちよ、預言者たちよ。この都について大いに喜べ。神は、あなたがたのために、この都をさばかれたのである」。 (黙示録18：9－20)

力強い御使いは、何世紀にもわたって人類を神の愛から遠ざけてきたこの世界システムの最終的な崩壊を告げます。

18:21 すると、ひとりの力強い御使が、大きなひきうすのような石を持ちあげ、それを海に投げ込んで言った、「大いなる都バビロンは、このように激しく打ち倒され、そして、全く姿を消してしまう。18:22 また、おまえの中では、立琴をひく者、歌を歌う者、笛を吹く者、ラッパを吹き鳴らす者の楽の音は全く聞かれず、あらゆる仕事の職人たちも全く姿を消し、また、ひきうすの音も、全く聞かれない。18:23 また、おまえの中では、あかりもともされず、花婿、花嫁の声も聞かれない。というのは、おまえの商人たちは地上で勢力を張る

者となり、すべての国民はおまえのまじないでだまされ、18:24 また、預言者や聖徒の血、さらに、地上で殺されたすべての者の血が、この都で流されたからである」。

(黙示録18：21－24)

神からの独立した者たちの祝いは、突然終わります。快樂主義者たちの歌は沈黙し、物質主義者たちの工場は閉鎖されます。光の町に、ともしびの光が輝かなくなり、結婚式を挙げる者がいなくなります。投資家の市場は崩壊し、通信機器は、機能しなくなり、世界のシステムは、停止し、システムに依存している人や、愛している人は、衝撃を受けて立ち尽くします。

これらの章の中で、2つのチャレンジがあたえられています。見て、行動することです。邪悪な霊的な力の見えない現実を見ることのチャレンジです。「17:3 御使は、わたしを御霊に感じたまま、荒野へ連れて行った。わたしは、そこでひとりの女が赤い獣に乗っているのを見た。」(黙17:3)。政府の背後に、商業の背後に、宗教の背後に、マーケティングの背後に、世界観のシステムの中に見られるすべての背後に、邪悪なシステムへと人々を支配し、封じ込め、盲目的にするためにサタンが織り成した観念です。この目に見えないシステムを否定し、すべてがうまくいっていると自分自身に言い聞かせることを選択することができます。しかし、黙示録は幕を引き戻し、すべてがうまくいっていないことを示し

ています。もしあなたが、神の真実を受け入れ、それを飲み込むなら（ヨハネ巻物を飲み込んだように）、あなたは毎日、あなたの世界で彼女（バビロン）を見始めるでしょう。御霊と御言の内に歩むなら、人生のこの壮大な祝宴の背後に、妄想のワインを差し出す女がいるのを感じ始めるでしょう。人間は悪の王国に囚われており、その現実が目がくらんでいます。

2つ目のチャレンジは反応することです：**18:4 わたしはまた、もうひとつの声为天から出るのを聞いた、「わたしの民よ。彼女から離れ去って、その罪にあずからないようにし、その災害に巻き込まれないようにせよ。18:5 彼女の罪は積み積って天に達しており、神はその不義の行いを覚えておられる。」（黙示録 18:4,5）。**

私たちは、女（バビロン）を見極め、女（バビロン）から離れ去らなければなりません。「この世に」生きながら、この「世の」者となつてはいけません。神の民にとってのチャレンジは、私たちの生活を調べて、何らかの形で女（バビロン）に誘惑されていないかを確認することです。私たちが鑑賞する映画のメッセージによって、人生観を形成され始めていないでしょうか？バケーションの開放感への欲求が、主のために苦難に耐えようとする意志を超えてしまっていないでしょうか？政治的な議論に参加することを好みますが、地上の国籍が非常に重要になり、真の国籍（ポリテウマ、ピリピ3:20）が天にある事を忘れて（または最小化して）いないでしょうか？指先の操作一

つで、簡単に世界に通じていますが、私たちが手にする機器によって、心やエネルギーや想像力が消費され始めていないでしょうか？外見を良くすることや、気分を良くすることや、健康を維持することを好みますが、古代ギリシャ人のように、人間の形をした偶像崇拜に踏み込んでしまっていないでしょうか？時おり、パーティーをすることを好みますが、次のパーティー、次の脱出、次の冒険のために生きがいを感じ始めていないでしょうか？次の突進を追い求めるアドレナリン中毒になってしまっていないでしょうか？投資に対して高い見返りを得たいと考えますが、神を愛するよりも、徐々にお金を愛する人になってしまっていないでしょうか？

大バビロンは、突き詰めると「サタンの花嫁」です。この女が黙示録第18章で、19章の「キリストの花嫁」のすぐ手前に現れているのは、決して偶然ではありません。聖書は、終わりに近づいており、ここで、二人の王がそれぞれの花嫁と一緒にいるのを見ます。イエス様とその教会、そして、サタンとそのバビロンです。目に見えない、私たちの周りの幕を引いたとき、この2つの王国（光の王国と闇の王国）しか存在しないことに気付きます。あなたは、どちらの王国に生きておられますか？あなたはどちらの花婿のために生きておられますか？全人類は、黙示録第18章か19章のいずれかに見出すことができます。あなたはどちらの章に生きておられるでしょうか。